

東日本大会を終えて

エピソードⅣは全国大会出場を決めた瞬間に、その感動を伝えるはずであったが、その前に、今 この気持ちを、大会までの歩みを、などなど平成26年度 第45回東日本女子ソフトボール大会を終えた この時に書くことにした。



さかのぼること 3か月前の年末、平成26年12月 前橋育英ソフト部 初の校内練習合宿を行う。ここで選手が一生懸命に練習に打ち込むのは当然だが、他校を交えての合同練習など冬場の厳しいトレーニングをどう乗り越えるかは 次の球春への準備にもなる。それが今回の結果にすべて出たかどうかは わからないが、少なくとも冬の走り込みでスタミナは十分ついてきた。そして 何より感謝すべきは保護者の協力である。この合宿の食事を保護者が準備してくださり、自前の食材で経費削減を目指す、その上がりはどこへいくかといえば、反省会の費用へと活用される。

平成27年1月年始、今年最初の練習前に監督が何を言ったか？
普段の練習は主将の一言から始まるが、この日は監督の一言から始まった。

監督：「今年は何の年だ？」

選手A：「ひつじ年」

監督：「ブー」

選手B：「東日本の年」

監督：「ブー、ハズレではないが、今年はインターハイへ行く年だ」

選手はまさに半信半疑だったと思うが、それを今年の本当の目標にしたい・というかする。



平成27年2月 まだまだ寒い日が続くが、そろそろ試合を再開していく、例年の強化大会。県内外を含む16校が前橋育英・伊勢崎清明・太田商業のそれぞれのグラウンドで熱戦を繰り広げた。中でも強豪 桐生商業との一戦は力が入った。お互い譲れない 緊迫した公式戦のようであった。

2月中旬 IV類の修学旅行（沖縄）、終わってすぐの埼玉栄戦（栄も修学旅行中）、鷺宮戦での強風は 何年か前の熊商での出来事を思い出した。その後はテスト週間や卒業式も含み、長くソフトボールから離れる。

平成27年3月 学年末試験も終了し、ソフトボールに専念したいところだが、成績不振者がいて進級が危ぶまれる者もいた。

前橋育英グラウンドでの選抜出場壮行試合および強化練習会。選抜出場校の高崎商業 対選抜A、選抜B、と前橋育英。各々3チームと対戦したが、一勝も出来ないのは育英のみ。直前の長野遠征で最後の仕上げを図るつもりが、これも意に反す。挙句の果てに内容が悪くて、一番遅くまでグラウンドに残って練習するも、部長の逆鱗に触れ、直立不動で固まっていた。さらに、ダメ押しは開会式前日の練習試合で、しかも東日本出場チームとの対戦、初回のチャンスで3番・4番の連続見逃し三振。今度はレギュラー組が試合からはずされる始末。この日も練習試合から学校へ帰って練習。と いうことで前日まではこの結果をだれが予想できたか。



それでも 選手は大会中ピンチになると胸のお守りを掴んで どうにか 一戦一戦 戦い抜いてきた。そのお守りは保護者会で準備された必勝祈願の前橋育英高校野球部ご用達の中之嶽神社 宮司：工藤氏からのお守りである。

そして 今回 この大会が45回目、監督の年齢が45歳、監督の背番号は#30だが何かにつけて#45を好んでつける。その45には意味があるのだが、それは次回のエピソードで・・・。

さらに 予選リーグ終了後、二次抽選会後の懇親会でチーム紹介をした時の
「それでは前橋育英の監督さんどうぞ」と言われた 1分スピーチで
「野球は1番 サッカーは2番・・・」 その続きはソフトも1番と言いたところだ
ったが。

「東日本で3番」と今 付け加えておく。

そして 最後に古河の借りは東日本でリベンジし、東日本の借りは関東でリベンジ。全
国でも構いませんが。

いずれにしても今回の東日本では保護者をはじめ、いつも前橋育英高等学校ソフトボ
ール部を応援してくださる方々の熱い気持ちを非常に強く感じ、選手も指導者も一緒に戦え
た。これからも また あたたかく見守っていただければと思う。



本当にありがとうございました。

